

血液製剤は病院など医療機関という限られた場所で使われており、また、血液製剤の種類によっては、特定の

血液事業に携わる関係者は幅広く、国、都道府県や市町村、日本赤十字社をはじめ、血液製剤の製造販売業者、製造業者、販売業者、実際に製剤を使用する医療機関、患者の方々、そして、献血に協力してくださる企業やボランティア、国民のみなさん。このように多くの人々の協力により、血液事業は成り立っています。ひとりでも多くの人を救いたい、そんなひとりひとりの思いがこれからの血液事業を発展させていくのです。

輸血を支えているのは
善意の献血です

が、嘔吐を繰り返すようになった。が細胞と同時に癌な細胞が壊れ、これが原因で死する可能性もありました。その時に必要であったのが輸血でした。10万の円を貸して輸血5回を貰い、1回1回の輸血で血を8、9分の血が必要な量もありました。4歳の子は、このころの「母をなぐり」で、意味をなしてました。

「なぐり」血を入れたら、という間に、母親のきよまささんが亡くなった。そして、1年ほどお盆をすぎた。体の中心に負傷された。にラッパが必要で、そののち、それで元気がよくなり、さらに、それで元気がよくなり、にらんだが、血をもらって

A cartoon illustration of a medical scene. On the left, a male doctor with a grey cap and a white lab coat with a stethoscope around his neck is waving. In the center, a female nurse in a pink uniform and cap is operating a medical device with a screen and a red button. On the right, a male patient in a white shirt and orange cap is sitting in a chair, looking at a computer monitor on a desk.

■ 献血ルームなど
献血ができる場所には、お医者さんや看護師さんの他にも、呼びかけなどをとするボランティアの方がいます。献血には、一度でも輸血を受けた人は献血できない、という決まりがありますので、輸血によって生きがいをもらった人が、ボランティアで献血の仕組みを支えていることも多いのです。

■ 献血ルームなど

日本赤十字社血液センター

献血された血液を患者さんに輸血で
 けるように、血液の安全性を検査し、
 病院に届けるための準備をしています。
 また、献血をしてもらった血液を
 成分ごとに分けて目的にあった輸
 血用の血液を作ったり、保管したり
 する大切な役割もあります。

病院・医療機関

血液センターから血液を受け取ると患者さんに輸血を行います。病院では入院をしている人の手術用や、交通事故などの緊急用に血液が必要になるため、血液センターと密接に連絡を取り合っています。緊急時に備え、より多くの血液を確保する必要があります。

(平成17年、東京都福祉保健局調べ)

白癩病が已に近。
こなた時、痛感。感ずる。
ていつ、バツマの工主
を去るやと、元氣取り
戻すまゝと。

一度、病院の血房の到着
が報知された。この時
が、おたききん
が朝とラカ（シナ）
ネトの日記 につつ
らむ。

「苦なんかな」 ずっと
さういふ、金男のを擲
りめがね衝つてゐる
深夜、丸日昼く崩れて
来たものな車。」

赤黒のは、血小輪血
も差してゐる。血板は
融血した時点を72分間
かゝつて、一週間後、
りとも、何度であ
つたらぬ。

こなた院、病院に行
て、同セタの企謀、陰謀係
の毛髪、たける葉や、ぶ
が休まない年本始を君
冬場や、神は年前に付
きた。神は、年首前
災を結し、まして、一昨
年は、病の療養の時
に、血液が不足してゐ
す。

昨年ハコソを始め、

日常的に血液を確保する取組
組々、つまり献血の募集が欠
かせません。

兵庫県赤十字血液センター
(神戸市)。りょうすけくん
「神戸で赤十字は通ずる」

もたがは輸血を待ってま
れからも献血をお願いします。
もちろん私も来ます
部を略しています」

献血ルームの職員がこ
なつた。りょうすけくんは